謹白言上

祇園社荒〻御番毎年六月七月八月十月
霜月合五ヶ月之御番之儀、従南蔵院令退転
然處梅坊以私業依致退転、代々被付技者として
為號之十五年来守中主札賞人錢飯米以下まて
存仕候之處、梅坊于今相續之条、無異儀被仰付處に
梅坊申子實存信と申者代々相續と号し、競
望仕、一向無謂候、又子細無之候て南蔵院
ありのを以代官申付之處、請文被無異儀者与
梅坊私物之様に申如此事之儀、言語道断之至極
梅坊頓首申子のみ存信は無之、子細無異儀候
右之様に御付候て、可被寄御札様に、以被成
不備以言上

天正十五年十二月　日

祇園執行寶壽院
祐雍（花押）